

あなたの背を見て昭和を生きてきた
五・七・五と日課の如く指を折る
しんみりと独りエレジー聴く夜更け
命干す小春日和に誘われて
訳あつて一途になれるものひとつ

尾道市

小川道子

さいたま市

星野育子

天声人語に初の女性筆者
秋まつり頼りにされる老人力
通過後にJアラート鳴りパニック
愚痴小言云わず聞かず独り住む
第二の人生線引きはそれぞれ

福山市

石田絹代

お早うで気分が活きる心が弾む
一日が長くてひと月早すぎて
冬がきて亡夫の手袋指とおす
アルバムに七つ釦の若き亡夫
これからの私をつくる日記買う
遺された縫い目亡母のちゃんちゃんこ
入浴のメール音戸の瀬戸は風ぐ
極限とのほん蜘蛛は糸を張る
柳誌から消えたお名前前に掛かり
とつときの笑い話を誰にしよ
停戦の糸口絡む年の暮れ

呉市

増野臣子

喧嘩するほど仲が良いなんて嘘
消えるボールペンお怒りを書いたろか
耳かきをしてあげたのはいつの日か
とぼとぼと缶チューハイを2個さげて
今ちよつといつもの私かくれんぼ

岩出市

高良侑未

総社市

小塚未希

一大事我出来る事少しずつ
両親へ電話とライン日課なり
タイミング便利グッズの贈り物
すき間なく箱いっぱい里野菜
故郷の届く写真に感謝です

岩国市

上村夢香

太陽光狭い空地を狙い打ち
ラインするやつとスマホの仲間入り
金次郎というあだ名もらった友がいる
悪女でいい道をまだまだ闊歩する
マイナンバーゲットしましたポイントで
初めての一一九に震える手
乗りながらピーポーの音他人事に
しばらくは会えませんが手に握る
山ほどの書類を書いて帰途につく
速くからかけつけた娘の頼もしく
「来て」という夫の言葉が胸を刺す

上尾市

中村伸子

福山市

酒井日出夫

黄金色収穫前の稲の顔
三姉妹のハーモニーです母の歌
無事終わる娘の手術携帯に
妻作る人情卵弁当に
趣味の部屋六畳一間俺がいる

東広島市

和泉歩美

幸せのお裾分けです嬉しい日
言われるとなんだか照れるお姉さん
ふかふかのベッドではしやぎ寝坊する
家事育児ルンバに少し頼ります
ロボットは人より偉い時がある

竹原市

金沢節生

施設まで太鼓の音は聞こえない
物言わぬデーサーピスの仲間たち
施設部屋北と南の差をつける
返事する老いた仲間が我が強い
同級生活を聞いて指を折る

竹原市

古谷節夫

シナリオは無いが元気に今を生きて
たくましく生きたあかしの太い骨
そんなこと有ったか友と笑いあう
ミサイルが北の国から飛ぶ恐怖
継続は力今宵も本を読む
お菓を毎日飲んでまだ元気

竹原市

土井輝恵

捨てられぬ二代四人の通知表
朝ドラの戦争シーン辛く観る
婆ちゃんの味を運んで自転車で
神様も戸惑う祭三年ぶり
九十四毒舌の癖直らない

竹原市

元吉慶子

惜しみなく感動くれるお月さま
頼られてこれはエールと受け止める
娘や孫に誘われ秋路をゴッホ展
忘れてた時間制限ない気楽
八十五無病を医師が不思議がる

竹原市

菅弘子

カーペンターズ優しい声で癒す午後
「青の弥勒」紺碧の空瀬戸の藍 (平山美術館)
孫の手土産話題の弾む午後のお茶
「音楽の泉」日曜日の朝食
しまなみの箱庭長閑リフレッシュ

竹原市

若年幸子

祭り囃子男のロマンはじけてる
コロナ禍をしばし忘れる紅葉狩り
雲ひとつインスタ映えをする紅葉
憧憬へ亡夫の姿其処此処に
もみじもみじシャッター音が止まらない
日溜りへ季節外れの花健気

「墓護る」息子の言葉に安堵する
 竹原市 田中敬子
 秋空に飛行機雲の一本気
 海と空の間明神の波止を歩く
 腰に手をあて曾孫の得意顔
 町並の昭和の店も店じまい

料理本いらぬ主婦の台所
 竹原市 松田栄香
 コーヒーと独りの朝を模索する
 クシヤミまで貫禄ついて来た私
 墓参り田舎の空気持ち帰る
 健康であれば何とかなるこの世

待ちぼうけ女は損だと思ふまい
 竹原市 岩本笑子
 私だけ大きな荷物もっている
 少しずつ体が違う方へ行く
 これでいいんだろうかお月様
 生かされて歩いていきます昼の月

三回忌子孫だけのあげ法事
 竹原市 山本京子
 黒か白か決めずなんとなく生きる
 農婦の手白かったのはいつだろう
 草取りの螺旋どこまで昇るやら
 果樹たちが夏の暑さに音をあげた
 間引き菜を喰らう農家の幸せだ

真白く季節のない部屋もたそがれる
 竹原市 楠貞子
 思い出は新鮮なままよみがえり
 コロナに明け暮れ静かな秋が忘れられ
 眉間のシワ消えない曇り空つづく
 夢の中一生懸命整理する

母もココア飲んでいるだろ午後の風
 竹原市 國兼千代美
 勝負する蜻蛉の目には負けられぬ
 輪の中は目立たないようおとなしく
 新郎の父の心を青き空
 マイウイッグ使ってみました披露宴

はじめての手紙半分かがみ文字
 竹原市 江島千枝
 竹原市 新潟史子
 冬が来た布団に潜っている息子
 欲しいものコロコロ変わるよサンタさん
 張り詰めた朝の空気に背筋伸び

ジュニアの部 御園宇小二年 和泉沙弥
 ルンバちゃんかぞくが一人ふえました
 あさはさむいかえる時はあつくなる
 フリフリのかわいいドレスきてみたい
 忠海学園一年 江島央
 マーチングバンドピアニカ2曲ふきました

卓袱台の丸さよ父がいた母もいた
 竹原市 栄谷白狐
 遺憾ですくらいは僕にでも言える
 お年玉ぼくには孫がいたらしい
 秋深しクラスメイトがまたひとり
 わりやりに持たせるつもりマイナとや
 連休がくると奥歯が痛み出し

政治家よ庶民の声が届かぬか
 竹原市 向原道子
 町並みは歴史の宝庫誇らしい
 物忘れ年のせいだと言いつつ
 秋の実り食欲そそるものばかり
 市議選の名前連呼で中身見えず

健康体操明日も歩けますように
 竹原市 今井初音
 苦も楽も越えて百寿のわらい顔
 友人の思いもかけぬ喪のはがき
 チューリップ今年はまだあるく植えました
 曾孫の毎日変る髪飾り

初誕生一生餅を背負う孫
 竹原市 古田比呂子
 あと十年ふんばるつもり靴のひも
 透き間風私の中を通り抜け
 風そよぐ表も裏も私です
 開き直ってこんなに強くなりました

三年振りのカラオケに酔う君に酔う
 竹原市 小島蘭幸
 イヤホンもう飛行機は恐くない

会計だより (令和四年十一月十五日)

寄付・寄贈 中村伸子 元吉慶子
 令和五年前期まで 古田清
 令和五年後期まで 常友計宏 増野臣子
 令和六年後期まで 中村伸子
 会計 古田比呂子

訂正とお詫び

本誌11月号、13頁下段「並木道」の絹代さんの作品は、
 左記が正当です。訂正してお詫び申し上げます。
 打てば響く人の善意が届けられ 伯峯

中央専門誌「月刊川柳塔」の購読をお薦めします。
 定価 一冊 八〇〇円 (十送料百円)
 半年分 五〇〇円 (送料共)
 一年分 九八〇〇円 (送料共)